

平成21年度技術士第二次試験問題〔環境部門〕

選択科目【19-3】自然環境保全

1時30分～5時

I 次の5問題のうち2問題を選んで解答せよ。ただし、Aグループ（I-1～I-2）及びBグループ（I-3～I-5）からそれぞれ1問題を選ぶこと。（問題ごとに答案用紙を替えて解答問題番号を明記し、それぞれ3枚以内にまとめよ。）

Aグループ

I-1 2010年に第10回生物多様性条約締約国会議（COP10）が我が国で開催される予定である。このことに関し、次の①～④について述べよ。

- ① 生物多様性条約の目的と特徴
- ② この条約に対する我が国の取組
- ③ 我が国の生物多様性の現状と次回会議が我が国において開催される意義
- ④ 生物多様性の評価の現状と評価する上での今後の課題

I-2 国際自然保護連合（IUCN）が分類する保護地域6類型の中でも我が国の自然保護にとって認識が特に重要と考えられる類型Ⅰ：学術研究と原生自然の保護地域，類型Ⅱ：国立公園，及び類型Ⅴ：景観保護地域に関し、次の①～③について述べよ。

- ① IUCNの類型Ⅰ，類型Ⅱ及び類型Ⅴに相当する我が国の保護地域それぞれの地域指定制度成立の時代背景，根拠法律，指定目的，その他の概要
- ② 我が国におけるIUCNの類型Ⅱ及び類型Ⅴに相当する保護地域を，管理上の目標と土地の所有などの面から比較したうえでのそれぞれの保護地域の問題点と課題
- ③ 上記②を踏まえて，我が国の類型Ⅴの保護地域の今後の展開方策

Bグループ

I-3 自然公園の公的施設整備に関し、次の①～④について述べよ。

- ① 施設整備に携わる者に求められている基本的な配慮事項
- ② 必ず行なわなければならないとされている確認事項
- ③ 自然公園施設の3つの整備目的
- ④ 自然公園内のバリアフリー化のあり方

I－4 絶滅のおそれの高い野生生物の保全を目的とした生物調査について、具体的に調査対象種を一種挙げ、次の①～④について述べよ。

- ① 調査対象種として挙げた理由、分布、特徴等
- ② 現況調査の方法
- ③ その調査対象種に対する行政の取組みの現状と課題
- ④ あなたが考えるその調査対象種の保全上必要な対策と技術的課題

I－5 鳥獣の保護管理に関し、次の①～④について述べよ。

- ① 鳥獣の保護管理と動物愛護の相違点
- ② 鳥獣保護管理と農林水産業との関係
- ③ 特定鳥獣保護管理計画制度の基本的な目標
- ④ 鳥獣の生息地側に見られる問題